

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

| | | | | | |
|------|------------|-----|------|-----------|---|
| 法人名 | 苗場福祉会 | 代表者 | 湖山泰成 | 法人・事業所の特徴 | 法人の理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を念頭に、スマイルホームこたねは小規模多機能型居宅介護の事業所であり、地域密着型サービスを提供しています。地域の方に将来介護が必要になっても“スマイル”があるから安心と思っていただけるよう、地域に寄り添った施設づくりを心がけています。少人数のお客様が家庭的な雰囲気の中、1日ゆったりと過ごされています。お食事もお郷土料理を取り入れ一般的な家庭料理を提供しています。 |
| 事業所名 | スマイルホームこたね | 管理者 | 高波直樹 | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|-----|
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| | 1人 | 0人 | 3人 | 1人 | 1人 | 1人 | 0人 | 2人 | 1人 | 10人 |

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|-------------------------|--|---|---|--|
| A. 事業所自己評価の確認 | 職種により回答不要という項目を設けたり、アンケート内容を分かりやすく説明していく。 | 職員の聞き取り項目に関しては特に回答不要とせず、【個人】ではなく【こたね】が適切に運営されているかの点で回答いただいた。 ① 事業所内のミーティングの機会を作る ② 地域共助の促進 | ・聞き取り方法が統一出来ているのであればよいと思う ・地域共助の機会はこれからも推進していく。 →12月23日にスマイルホームこたね【行方不明者捜索訓練】実施予定。行政として も次年度に向けて知識をつけていきたいので、後学のために参加させていきたい。 ・狭義の地域共助として、集落との関りを強めた方がいいと思う。突発的・予測不能な事象他、災害時・火災時等に気の留めているといないとは大きな差が出る事もある。 | 職員が主体性をもって、こたねの運営に携われるように今後も会議やミーティングを継続していく。会議前の意見集約、会議録の閲覧による周知をしていく。検討・評価を要するミーティング内容を業務日誌・ノートを活用して周知していく。次年度も職種による回答不要はなく、全職員が同様に評価していく事とする。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | 季節ごとの飾り付けや環境整備を継続していく。 | 毎月の飾り付け、塗り絵などを展示されている。ご利用者様が翌月分の絵を準備してくださっている | ・入りやすいつくりにはなっている。 ・最近では物騒な事件もあるため、夜間の施設は欠かさずに行うと良い。 ・画面付きのインターホンがあるため、来客が分かりやすい。 ・災害時に非常口から入ることは集落の役員会で共有している。 | 季節ごとの飾り付けや環境整備を継続していく。 2008年開設し、修繕が必要な箇所が出てきている。修繕が必要な場合すぐに改善に向け取り組んでいく。早急に出来るもの、予算を立て計画的に実行するものを判断し、実行する。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | コロナ対策のため交流は難しいが地域状況を見ながら少しずつ再開していきたい。 | ・地域交流に関しては、徐々に出来ている。(上郷小学校様・上郷保育園様) ・避難訓練、消火器訓練に関しては、地域の方が2名参加して下さった。 | ・地域交流に関しては、徐々に出来ている。(上郷小学校様・上郷保育園様) ・避難訓練、消火器訓練に関しては、地域の方が2名参加して下さった。 ・今後コロナは無くなるので、法人・事業所の方向性が定まっていれば、あえて外向的にならなくても良いと思う。 | 感染症の状況を見ながら、交流を再開・継続していく。新しいものに取り組むことが難しいのであれば、過去実施できていたことを再開していく。 ボランティアの受け入れなど積極的にやっていく。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | コロナ対策のため交流は難しいが地域状況を見ながら少しずつ再開していきたい。 | 地域交流に関しては、徐々に出来ている。(上郷小学校様・上郷保育園様) | ・地域との関りでも触れたが、小学校や保育園など交流は以前に比べて盛んになってきている。ただし、日常的な外出などが行われる機会が少ない。 ・天気の良い日に近くへ出かける程度。今後はもっと外にでたり、地域の方々との交流の機会を持つことが望ましい。 ・例えば麻痺等あり、職員の援助がなければ外すら見ることが出来ない方がいるとすれば、その方の足になって、少し散歩をする事は、取り組みの一環の外出や交流よりも価値ある行為だと感じる。 | 感染症の状況を見ながら、交流を再開・継続していく。新しいものに取り組むことが難しいのであれば、過去実施できていたことを再開していく。 ボランティアの受け入れなど積極的にやっていく。 外出の機会を持てるようにする。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み | 運営推進会議で事例検討が必要なケースであれば、個人情報に注意の元で行っていく。委員は遠慮せず情報提供や提案を行っていく。 | ・多くの方が参加され、地域の情報が聞けている。構成員の方々からアドバイスをいただき実施に繋がった内容もあり、非常に有益であると感じている。 ・運営推進会議を2ヶ月ごとに開催し、事業所の取り組みや地域の情報などが話される良い場になっていると思われる。 | ・高齢者福祉や介護に関して知らない方も大勢いるので、地域の集まりや振興協議会の集まりに参加した際にスマイルホームこたねをPRしても良いと思う。 ・他の事業所では警察の方が参加するところは珍しいと驚かれる。良い繋がりが出来ている。 | 運営推進会議で事例検討が必要なケースであれば、個人情報に注意の元で行っていく。委員は遠慮せず情報提供や提案を行っていく。 |
| F. 事業所の防災・災害対策 | 今後もAED貸し出しや避難スペースの提供に対応できることを発信していく。訓練や行事の様子を施設だよりを通してお伝えしていく。 | ・10月28日に避難訓練が実施された。地域の方2名参加された。 ・2月頃に2回目の避難訓練を予定している。地域の方に参加していただきたい。特に消防団の方々には参加を依頼し、設の概要や利用者の状態など把握していただけると良い。 | ・職員が少人数な為、いざという時に人手がないと困る。近隣にある工場の方々にもお声がけしておけば、強力な助けになるのではないかと。 ・スマイルホームこたねの火災通報設備は警報と連動していないため、見直しが必要かと思われる。 ・人命に関わる事なので特に夜間(冬季は尚のこと)ととにかく一刻も早く誰か駆けつけないと成す術がないと思う。地域との関り・繋がりの目的はここに集約されていると思う。 | 地域の方に参加していただけるように工夫する(運営推進会議開催日に実施等) 国道からではこたねの場所が不明確、建物を見てすぐに位置が把握できるようにすると早急に駆けつけることが出来るので、改善していきたい。 |